

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300420		
法人名	有限会社 五葉会		
事業所名	グループホーム 静豊庵		
所在地	長崎県諫早市森山町慶野778		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成25年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見晴らしのいい高台にあり、空気が澄んでいて気持ちの良い環境にあります。職員の年齢層が幅広く色々な世代との会話を楽しめます。笑顔を決やさず安心して日常生活が出来るよう、また自立支援を行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

諫早市森山町にある“グループホーム静豊庵”は開設から10年を迎えた。色々な方に支えられての10年であり、「森山町の住人になったね」と言う言葉を地元の方から言ってもらえる事を、代表や事務長は嬉しく思っている。馴染みの職員も多く、職員と利用者は見晴らしの良いホームの庭で日向ぼっこをされたり、のどかな環境の中で職員と一緒に“つくし”を探りに出かけている。保育園児がホーム周辺を散歩する時も手を振りあう姿が見られており、町内の空き缶拾いや交通安全の旗振り当番を担うなど、地道に地域の一人としての取り組みを続けてこられた。日々の生活では、仲良しの方同士で入浴される姿も見られ、職員の自宅の庭に咲いている薔薇の花を湯船に浮かべたり、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。静かな山あいの自然の中で、“和をもってふれあいの喜び 今を楽しみ素敵に人生 笑顔とともに家族も安心”という理念のもと、利用者の笑顔を引き出せるアイデアを職員全員で考えており、24年度は新しい職員も迎え、更なるチームワークを作り続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を共有し実践している。	ミーティング時に理念を振り返っている。年始には、職員個々に「利用者と共に盛り添いたい」「レクを増やしたい」等の1年の目標が作られ、達成に向けた取り組みを続けている。利用者から「ずっとここにおるけんね」と言う言葉を頂いたり、家族からも「顔が明るくなり、言葉も出てきて嬉しいです」と言って頂き、職員も嬉しく思っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加できるよう支援している。	散歩の時には地域の方に笑顔で挨拶し、野菜などを頂く事もある。保育園児がホーム周辺を散歩する時も手を振りあう姿が見られている。町内の空き缶拾いや草かり、交通安全旗振り当番も担い、町内の運動会の応援や町内のお祭り等にも参加している。敬老の日には、小学生が折り紙で作ったお花を持ってきて下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	もう少し積極的に認知症について地域の人に知ってもらわなければならないと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の実情を会議に持ち込み話し合いの場としている。	2か月に1回、利用者と家族、民生委員、市役所(支所)の方が参加して下さい、参加者からは“猪情報”やご自分の介護体験、他施設の情報も頂いている。会議の時には職員が交代で勉強した内容を報告する機会も作られ、参加者からも色々な感想を頂いている。今後も、駐在所や消防署の方にも声をかけていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情や取り組み等を話、協力を依頼している。	毎月、事務長が市役所(支所)を訪問し、事務的な手続きや報告・相談を行っている。研修の場等でお会いする事もあり、ホームの状況を報告している。支所や地域包括の方に、制度に関する内容や車いす利用に関する相談をした時にも適確にアドバイスを頂いており、災害に関する市の査察もあり、誘導灯などの指導も頂いた。	運営推進会議の場でも、支所の方が笑顔で参加して下さいしているが、今後も、市の方から、“介護保険に関する情報”等を頂きながら、意見交換を深めていきたいと考えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わないことを取り決めている。	職員は身体拘束に関する研修に参加しており、ホーム内での自主勉強も行われている。感情が不安定になられた時は、お気持ちが落ち着くまで居室で過ごす機会を作るなど、その時々に関わりを続けている。利用者の方々は毎日散歩されている方もおられ、素敵な笑顔で過ごされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対に行わない事を取り決めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてもう少し勉強会が必要だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を十分に行い理解、納得が得られるように紙面での確認も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や、要望があれば、運営に反映させていく。	利用者と一緒に料理をする時や入浴時、散歩の時になどに、ゆっくり希望を伺うようにしている。施設長が家族に“一筆箋”でお手紙を毎月書いており、『お手紙を楽しんでいます』と言う言葉を頂いた。面会時にも「何かありませんか？」と希望を伺っており、面会の時にはゆっくり過ごして頂くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の会議時や、随時職員からの意見を大事にしている。	日頃から運営者と職員の意見交換が行われている。月2回の職員会議では、日々のケア内容や業務に関する話し合いが行われており、職員の意見も踏まえ、ユニット間の異動時期を検討し、1年間は馴染みの職員でチームワークができるようにした。今後も、職員の意見を引き出せる取り組みを続けていく予定にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の勤務状態を把握し、やる気をもって仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、介護力がつくよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等、同業者が集まる研修等に参加し、勉強の機会を設けている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活が送れるよう初期の段階から接するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の不安が少しでもなくなるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスは何かを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合いを大事にし、ともに楽しく生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに利用者を支えていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途絶えない様支援に努めている。	お墓参りや美容院などに家族がお連れしている。同じ職場や同じ信仰の方が来て下さり、居室でゆっくり過ごされている。家族からの手紙は読みやすいように拡大したり、職員がお返事を代筆している。のどかな環境の中で、職員と一緒に“つくし”を探りに出かけたり、一緒に“あやとり”をしながら昔話を引き出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いが多く持てるよう支援しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族等との関係を大事にしていきたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らしを大事にしています。	利用者との会話を大切にされており、ご本人の思いを引き出すように努めている。意思疎通が難しい方には田んぼを見て頂き、四季の生活を思い出して頂く機会も作られている。「家に帰りたい」と言う思いに対しては、家族の協力も頂き、お正月を家で過ごされた方もおられる。今後も、行動障害の原因を分析していく予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活を送ってこられたのかを把握し安心して生活できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、出来ること出来ないことを把握し、出来ないことへの支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人に合った計画を立てるよう努めている。	計画作成担当者及各担当者が原案を作成し、利用者や家族の意向を基に職員全員で検討している。“洗濯物量みや皿拭き、俳句を詠む、編み物、お花の写真をみる”等の役割や楽しみが計画に盛り込まれている。以前使用していたセンター方式を再活用する予定であり、ご本人本位のアセスメントをしていく予定にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報の共有に努め見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	偏った支援にならないように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して豊かな生活が送れるよう社会資源も把握し支援できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの利用者のかかりつけ医との関係や、ホームのかかりつけ医との関係を大事にし、安心して医療が受けられるように支援している。	希望する医療機関を受診して頂いている。通院介助は職員が行い、受診結果については面会時や電話で家族に報告している。利用者の些細な変化や疑問に思う事などは准看護師(2人)に相談する事ができており、職員の安心になっている。主治医にも相談しやすく、24時間体制で往診に来て下さっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変にすぐ対応し、適切に医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の不安が軽減されるよう、また早期退院に向け医療機関との連絡を密に取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階とは言えないが、事業所で出来ることは十分に説明していく。	ご本人と家族の希望があれば、主治医と相談しながら、ぎりぎりまでホームで対応させて頂く方針であり、入居時に説明している。開設から2名の看取りケアが行われ、食事が入らなくなった方には毎日先生が点滴に来て下さり、必要に応じて適切な医療機関に紹介状を書いて下さっている。職員も微妙な顔色の変化にも気づいて下さり、早期発見・治療に繋げる事ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	職員全体で急変時の対応ができるよう、実践力を身につけていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や日ごろから慌てず行動できるよう勉強している。地域との協力がまだ出来ない。	消防署職員と消防設備事業者に参加頂き、夜間想定訓練が行われた。煙を焚いての訓練であり真剣に取り組まれている。自主訓練も行われ、災害発生時には消防団に連絡がいくシステムになっている。元消防団の近隣の方にも協力を頂ける体制もできており、スプリンクラーも設置され、水や缶詰等の食料等を準備している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけに十分注意している。	理念に通じる思いとして、職員は“利用者に笑って欲しい”と願っており、利用者への声かけを多くしている。代表も“利用者の立場になって考える”事を職員に伝えており、その方のペースや感情に応じた関わりが続けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るよう、職員の都合を優先せず支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、オシャレができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは積極的にして頂く。	利用者の希望を伺いながら献立に活かしており、その方に合わせた調理の仕方や量の配慮がされている。筑前煮、じゃがいも団子、ぬっぺなどの郷土料理も作られ、ホームの畑で収穫した旬の野菜も使われている。管理栄養士である施設長が食事のバランスなどを見て下さっている。	利用者の方には、調理の下ごしらえや後片付け等をして頂いている。食事中に綺麗な声で歌を唄って下さる方もおられ、ゆったりとした食事時間になっている。今後も、職員も一緒に“食事を楽しむ方法”を検討していく予定にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は口腔ケアを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し自立に向け支援している。	排泄感覚に応じたトイレ誘導をしている。その方のサインやしぐさを見逃さないようにしており、失禁が少なくなった方もおられる。夏場はできるだけヒートパンツをやめて、下着を着用して頂くようにしている。羞恥心にも配慮し、周囲の方に聞こえないように、「お手洗いにいきましょう」などの声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、軽い運動を取り入れ便秘を起こさない様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	危険が多い入浴は職員の確保が必要なので、好きな時間に入浴とは出来ないのが現状である。	入浴時間や入浴方法、異性による介助は大丈夫か等、入浴に関する希望を伺っている。仲良しの方同士で入浴される方もおられ、職員の自宅に咲いている薔薇の花を浮かべたり、菖蒲湯や柚子湯も楽しんでいる。体調に応じて2人介助も行われており、入浴を拒まれる時は無理強いないで、様子を見て声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりとした時間が送れ、気持ちの良い睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用を把握し安全に服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもち生活に張りができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くとはいかなくとも庭先まで出たり、外の空気を吸い気分転換を図っています。	ホームの広い敷地を活用して職員が手引きをして散歩したり、車椅子を押しながら外のベンチにお連れしている。車椅子の方が多く、全員での外出は難しい状況にあるが、初詣に行かれたり、お弁当を持って花見(桜・秋桜など)等も楽しんでいる。愛野の展望台でおやつを食べられたり、家族と一緒に自宅への帰省やお墓参りに行かれている。	人員体制が整ってきたので、外庭で過ごす時間や散歩に出かける機会を増やしていく予定にしている。今後も四季折々のお花見や、気分転換の機会が増えていく事を期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族がお金の管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけることはないが、かかってきたら会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快なおいや、汚れがないよう気を配っている。	リビングの窓から森山町を一望する事ができ、夏には花火大会を見る事ができる。リビングには大きな木が2階まで貫いており、居室から大きな木を目標に歩かれている方もおられる。職員手作りの雛人形など、季節の飾り付けをしており、会話のきっかけになっている。2階には量のコーナーもあり、お昼寝をされている方もおられ、テーブル席やソファ席も利用者同士の関係を見ながら、席の配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで居心地良く過ごせるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるだけ、ご家族と本人様で配置して頂くようにしています。	部屋の壁にはケアプランを貼っている。使い慣れたタンスや鏡台、ソファ、写真、観葉植物等を持ってきている方もおられ、編み物セットや俳句の本など、趣味の品物も持ち込まれている。利用者の希望に合わせてベッドの高さを調節したり、危険防止のために、ベッドの角を丸く削るなどの細やかな配慮もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるように支援している。		

事業所名: グループホーム 静豊庵

作成日: 平成 25 年 3 月 17 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	利用者と職員が同じ空間で食事を楽しむ。食事の準備から片付けまで出来る力を活かし、一緒に取り組む。	利用者と職員が同じ空間で食事を楽しむ。食事介助に追われない取り組みをする。	毎日出来る来ても、週のうち最低でも4回は職員も同じ空間で食事をとり、和やかな時間にする。食事時間がますます楽しいものとなるよう、会話が增える。	12 ヶ月
2	5	市町村担当者と連絡を密に取り、協力関係を築く。	市町村との連携をもっと取り、情報交換や近況報告をするなど、関係づくりに努める。	運営推進会議の時に、議題を持ちこみそれについての話をいただいたり、役所に訪問した時等、情報交換をし協力体制を整えていく。	24 ヶ月
3	49	外出の機会を増やす。	近くの公園や庭先でもいいので外出の機会を増やす。	天気のいい日、過ごしやすい気候の時は、体調を見ながら散歩やドライブの機会を増やす。	24 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月